令和３年度「地域における青少年の国際交流推進事業」（文部科学省）

徳島グローバルキャンプ　成果報告書

１　事業概要

オンラインを活用し，高校生が，英語を通して多様な価値観を持った国内外の同世代の若者と交流する機会を提供することで，グローバル人材として国際社会で活躍する際に必要とされる英語コミュニケーション能力，異文化理解，積極性，日本人としてのアイデンティティなどを育成した。

２　主催

徳島県教育委員会（担当：グローバル・文化教育課）

３　実施期間

事前研修　１２月１１日（土）・１２月１８日（月）
事業実施　１２月２５日（土）～１２月２８日（火）
事後研修　　１月　８日（土）

４　実施方法

オンライン（Zoom）

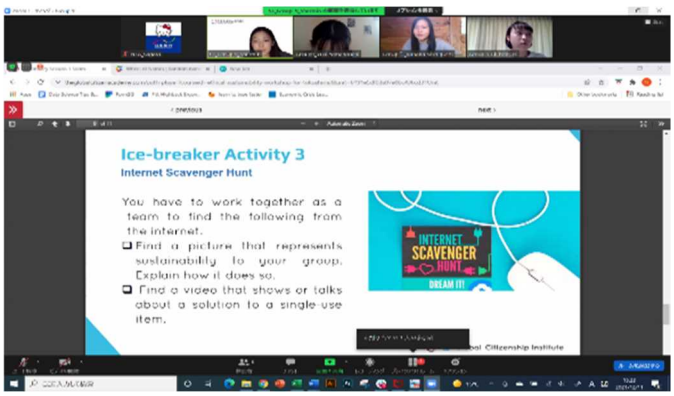
５　参加者

高校生　　３３名
海外学生　　２０名
外国人留学生　　１５名

６　事業内容

（１）事前研修

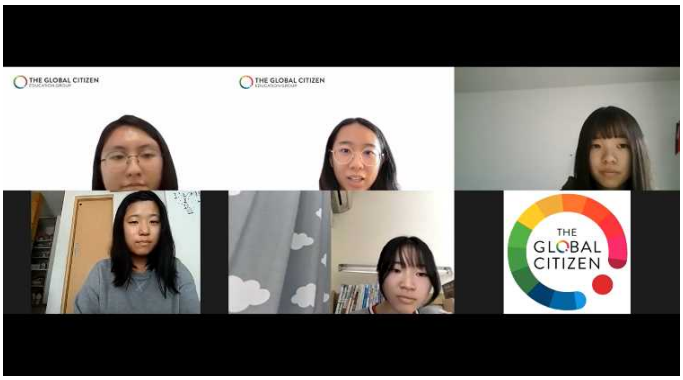
１２月１１日（土）　事前学習①
１３：３０　　入室（受付）
１４：００　　プログラム説明
１４：３０　　現地学生と英会話交流
１５：３０　　閉会
　　次回事前学習の案内



１２月１８日（土）　事前学習②
１３：３０　　入室（受付）
１４：００　　現地学生と英会話交流
１５：００　　閉会
　　メインプログラムの案内

（２）事業実施期間中の中心となるプログラム内容

【英語交流活動】



高校生とシンガポールの学生をオンラインでつなぎ，英語をベースとした多様な交流プログラムを実施した。１グループを高校生参加者４～５名に対し，グループリーダーとしてシンガポール人学生が２名つき，少人数編成とした。カリキュラムは全て英語で行い，SDGs をテーマに「エシカル消費」について話し合い，自分たちのできることについて発表を行った。現状をとらえ課題を解決していこうとする力など，将来，グローバル社会でリーダーシップを取り，異なる文化背景をもつ人々と協働するために必要な力を育成した。

生徒たちの感想

- 活動している中でたくさん英語をしゃべることができた。ほとんど文法などぐちゃぐちゃだったけれど，頑張って伝えようとする姿勢を見せるとグループリーダーも頑張って理解しようとしてくれたことがうれしかった。これからも完璧さではなく，そのような姿勢を大切にしようと思った。
- 今回の活動で人前で英語を話すことへの怖さがなくなって自信につながったので，学校内での活動や今回のような英語を通して学べる活動に積極的に参加していきたい。

【異文化交流】

鳴門教育大学の留学生１５人（出身国：セネガル，フィリピン，中国，フィジー，ブルキナファソ，セーシェル，ジンバブエ，ケニア，エルサルバドル，パプアニューギニア，ナイジェリアの１１カ国）を招いて参加高校生２～３人に対して留学生１人の小グループで，留学生の出身国についてのプレゼンテーションを聞いて質問をしたり，日本との違いについてやりとりをしたりして，交流を図った。今までよく知らなかった国について学ぶことで，グローバルな視野を広げた。

生徒たちの感想

- 様々な国の人と交流し，お互いの国の文化や歴史，おすすめの場所など紹介しあえてとても楽しかった。交流を通して改めて日本や徳島の良さもたくさん気付くことができた。
- とても優しかった。それぞれの国によって訛りが違っていて聞き取るのが難しかったが，もし聞き取れなくても聞き返せば気を悪くする人は誰もいなかった。

【徳島の文化を紹介】

四国遍路について，カナダ人であるモートン准教授から学ぶことで，基礎的な知識の理解に加えて西洋文化と日本文化の違いや「おもてなし」の意味を深く考える機会となり，参加者の価値観を広げ，徳島県人としてのアイデンティティを深めた。

講師：徳島大学　准教授　モートン常慈氏

生徒たちの感想

- 徳島県人であるにもかかわらず，お遍路をしたことがない。知っているつもりでもこんなに知らないことがあるのだなと思った。
- お遍路についての知識をつけることができて，専門的な言葉をいくつか覚えた。四国八十八カ所の魅力を再発見できた。

〇期間中のスケジュール概要

１日目　１２月２５日（土）

９：００　入室（受付）
９：３０　OPENING　CEREMONY
９：４０　鳴門教育大学留学生（１５人）との異文化交流
　留学生１人につき高校生２～３人の小人数グループにて留学生の母国の説明，日本に来て最も驚いたこと等プレゼンテーション，質疑応答
１１：００　四国遍路について
　講師：徳島大学　モートン准教授
１２：２０　振り返り・翌日の案内

２日目　１２月２６日（日）

テーマ：SDGs１２の理解及びコロナ禍での新たな問題点についての認識

９：００　入室（受付）
９：３０　挨拶・アイスブレイク
９：４５　SDGs１２
　各国の倫理的な消費行動の理解
１０：１５　新型コロナウイルスと環境・人間
　新型コロナウイルスが環境に与える影響や，マスクや手袋などの使い捨てのものが消費の増加に繋がっていることの理解。また雇用の喪失など人々に与える影響についての話合い

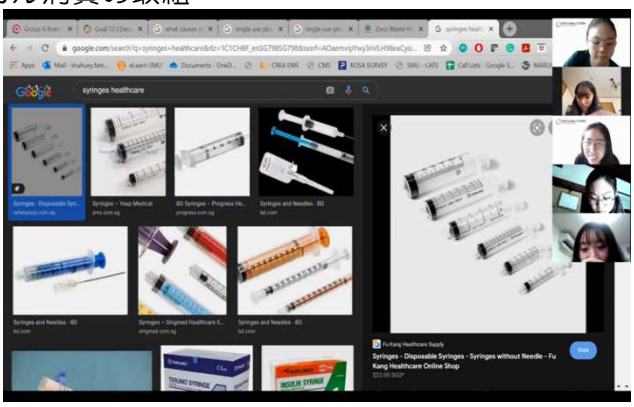
１１：１５　グループ活動・プロジェクト開発
　国やコミュニティ内で責任あるエシカル消費を促進するプロジェクトのアイディアを考案
１２：０５　まとめ

３日目１２月２７日（月）

テーマ：シンガポール，日本両国のエシカル消費に関する活動理解，意見交換今後必要なプロジェクトの議論及び社会的影響に関する解析学習

９：００　入室（受付）

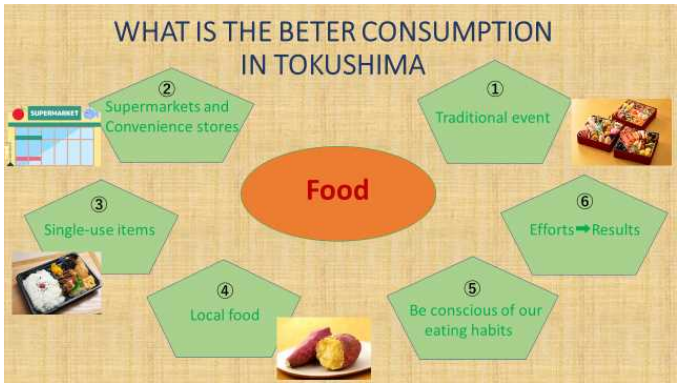
９：３０　前日の振り返り
９：４５　シンガポール及び日本のエシカル消費の取組
　両国の取組の理解とさらに 自分たちの県・市で行っているエシカル消費の学び
１０：３０　シンガポール及び日本のエシカル消費を取り巻く問題点
　新型コロナウイルスにかかわらず，現代社会における問題点とその解決策についての話合い
１１：１５　プロジェクト計画
　アクティブラーニングの推進に向け様々なプロジェクトを計画するための基礎知識及び立案する手法の学び。それを生かしたエシカル消費のプロジェクト計画
１２：０５　まとめ



４日目１２月２８日（火）
テーマ：自分たちの住む徳島のエシカル消費について考える
９：００　入室（受付）
９：３０　前日の振り返り
９：４５　プロジェクト準備
　各個人のできうるエシカル消費に向けたアクションプランをグループごとに話し合い，発表資料作成
１１：００　各班発表
　１グループ５分で発表し，講師よりコメント
１２：２０　まとめ
　３日間の振り返りと事後研修への課題案内

（３）事後研修
１月８日（土）
１３：３０　入室
１４：００　上勝町ゼロ・ウエイストセンターの取組
　講師：大塚桃奈氏
１５：００　メインプログラムの振り返り
１５：１５　シンガポールの学生に向けた発表
　１人３分程度
　課題：自分たちの住む徳島県を持続可能なまちにするため，自身が意識して行うべき行動をまとめる
１７：００　研修総括

参加者のプレゼンテーション



（４）英語教育との関連

徳島県は令和３年３月に「徳島県英語教育推進計画ＣＯＭＰＡＳＳ」を策定しており，令和３年度から７年度までの重要施策として「授業改善による児童生徒の発信能力の強化」，「コミュニケーションツールとして実践的に英語を使う機会の提供」等を掲げている。そしてこの施策を下支えするために，小学生から高校生まで１人１台タブレットを配付し，その活用を進める「徳島県 GIGA スクール構想」があり，この徳島グローバルキャンプはＣＯＭＰＡＳＳを実現させるための重要な事業の１つである。

（５）成果の普及

参加者の高校での校誌掲載等，徳島県チャンネル（YouTube）へ掲載

https://youtu.be/0-g18w44RU8

７　事前・事後アンケートについて

（１）実施について

同じ質問項目のアンケートを事前・事後に実施し，変化を見た。

（２）結果について

①文部科学省の形式によるアンケート

次の３項目で「とても思う」と答えた割合が顕著な（３０％以上）増

要素Ⅰ―　①語学力「英語で自己紹介ができる」

要素Ⅲ―　①異文化理解「交流国の文化を理解している」

「交流国の歴史を理解している」

その他２９項目中１８項目で１０％以上の増であった。中でも，

要素Ⅲ－　②日本人としてのアイデンティティは３項目とも２５％以上の増を示した。

「外向き志向」に関する項目の変容度の値　　平均５．２％

参加者が事後アンケートにおいて，「外向き志向」であると回答した割合　９８．７％

参加者が「外向き志向」に変容するために行った工夫

・SDGsのエシカル消費をテーマにし，コロナ禍での新たな問題点をシンガポールの学生と話し合いをすることで，参加者の視野を広げ，もっと多くの国々の課題や解決策を探究していくことに興味を持たせた。

・少人数グループでの活動により，自分が絶えず英語で意見を述べなければならない環境に身を置くことで，主体的に取り組む姿勢を育み，またグループ内で協働して一つのことをやり遂げていく態度も育成した。

・講演会の講師には，カナダ人であるが遍路に興味を持ち徳島県に在住しているモートン准教授や，神奈川県出身で「トビタテ！留学 JAPAN」で渡英経験後徳島県上勝町へ移住してきた大塚桃奈氏を選び，外から見た徳島県の良さを学ぶことで徳島県人としてのアイデンティティの確立を促した。

②徳島県の形式によるアンケート

グローバルキャンプ全体を通しての満足度　　参加してとてもよかった―６６．７％

参加してよかった ―３３．３％

キャンプで身についたカ１３項目中，次の５項目で１０％を超えた。

英語のリスニングカ・全体的なコミュニケーション能力・

主体性や積極性・チャレンジ精神・異文化に対する理解

８　成果及び課題と改善に向けた方策について

（１）成果

シンガポールの現地の学生と SDGs についてオンラインにて英語で話し合うという課題は，高校生にとって少しハードルが高いことではあったが，事前学習を２回行い，Zoom の使い方からはじめ，グループリーダーとコミュニケーションをしっかり行い，ある程度の人間関係を築いてからメインプログラムへと入っていったことで，参加者のテーマに関する理解度が増した。徳島県が行ったアンケート結果のうち，「徳島グローバルキャンプで，どの

ような力が身についたか」という問いに対して「チャレンジ精神」を選んだ参加者が１４．５％と最も高かった。また，「次年度以降同様のキャンプがあれば参加したいか」という問いには１００％の参加者が「参加したい」と回答している。このことから，参加者は難しかったが，最後までやり遂げたことで自信にもつながり満足度は高かったということを示している。オンラインであっても，事前の準備や学びの支援体制をしっかりすることで，大きな成果は得られるということを実証した。

（２）課題と改善に向けた方策

オンラインでの成果は出ているものの，アンケートでは「オンラインでは少し難しい」，「オンラインでは限りがあり，相手の表情なども分かりづらいため次はオフラインで開催して欲しい」という意見があった。コロナ禍における異文化交流はさまざまな制限がかかるが，来年度はオンラインとオフラインのハイブリッド型のキャンプを計画中であり，それぞれのメリット・デメリットをよく考え，内容を充実させていく。また，本県では小学生から高校生まで学習段階に応じた英語学習体験活動を提供しており，それぞれの内容を連携させた徳島グローバルキャンプとし，徳島県におけるグローバル人材の育成に取り組んでいきたい。